

94
10
39

準貴

享保才五律成同才六身貴同才七王子
同才八祭也

公義被仰上

百子保十五庚戌日十六辛
亥日十七壬子
日十八癸丑日十九甲寅日二十乙卯

公義
仲上



義之部

九音

春書札方

享保十又唐成年二月廿二日大徳月廿五日
月防書物法留書者指方通切書者其是
之方書細書年号月日附身之作方
法書文之通之教相傳法書者其指方
之法下作身之法之通者指法留書者
平之左右之法物者其指方人其之方
書之指方之法其指方之法其指方
城之法其指方之法其指方之法其指方

長保十五年庚戌三月

高拾万石以上之格

對馬

一圓 本國對馬

養文 對馬守
實文 宗刑部大輔

從四位下侍從

宗對馬守

成年三十九歲

肥前國之内一万三千四百貳拾七計貳年 生國同

享保十五年庚戌三月

居城對馬府中

右神宮守書置は是よりよりとてお徳少流又す人存く多し

右幅二寸六分

右長七寸七分

享保十五年庚戌三月廿五日

若殿様御書置は是よりよりとてお徳少流又す人存く多し
此より山中次郎宗重は是よりよりとてお徳少流又す人存く多し
大酒井宗重は是よりよりとてお徳少流又す人存く多し
河書首尾是よりよりとてお徳少流又す人存く多し
宗重は是よりよりとてお徳少流又す人存く多し

私嫡子宗一儀國許より書置は是よりよりとてお徳少流又す人存く多し

享保十五年庚戌三月廿五日私書置は是よりよりとてお徳少流又す人存く多し

以後本國非以上

○
○
○

二月廿一日

宗對馬守

右料紙大子書建初之色其法成子書色

宗對馬守從筆中法公子存身用之
了地方尸後之味形多元お信此
我白之味知之

享保十の唐成年十一月廿

法用者松平江道右衛門正清江廣波
とあしは多次棟取果と書り
致様は為對馬守様と云はれり有
及法宗乃反作し中法宗と反法宗
おし書分る也と云はれり
らりし也

宗對馬守

私為期未可快以在之故得長
子也作為期同編之因以名之
方及以可醫指并安良減醫
系也若店除治仕作治之及清
少年之上下

家對馬島後云

十一月六日

大浦延之書

同前十一月廿八日

若殿柳今日法廣出方也中少用是
松平左近將量候上平中少取候上上
口中人牧也十也名是上對候上上
書分也書候上上名是上上上
也知多候上上名是上上上
少元上上上上名是上上上
上上上上上上上上上上上

以名達のりしとて此宗家對馬守の無子
孫一徹今も其宗家仕仕此後此宗家
法印のりしとて

十一月廿八日

平山左右

一享保十五庚戌の十二月廿八日

此用者松平伊豆守保英妻後對馬守保長
方之趣此口之書お使心南守居之浦印表

持家伊豆守保長之口及次長若川源右衛門
對馬守保長之口及次長若川源右衛門
此口之書お使心南守居之浦印表
此口之書お使心南守居之浦印表

是

藏書之湯時被焚之儀對馬守保長
未だ此身此宗家若長守居之浦印表
此口之書お使心南守居之浦印表

此後...
...
...

是

極... 馬... 此... 行... 後... 自...
... 如... 此... 所... 事...
... 信... 下... 心...
...

十二月廿一日

平心亭

享保十六年... 正月廿一日

主... 殿... 大... 坂... 之... 名... 如... 此... 所... 也...
... 行... 大... 浦... 江... 之... 事... 人...
... 皇... 村... 大... 坂... 之... 事... 人...
... 了... 也... 一... 馬... 之... 事... 人...
... 宜... 之... 行... 之... 事... 人...
... 一... 也... 一... 也... 一... 也...
... 用... 者... 後... 之... 事... 人...
...

石原

「史記」用者海舟傳及書狀傳等
 三十一冊入古書中其書以
 中世以前用者書狀傳等
 以之書狀傳等之書
 名書之如史記等之書
 史記等之書之書
 右史記等之書

い

梅屋之馬傳云平十三年
 政事院の書状に
 十八日大坂に
 此の書状は
 史記の傳中
 史記

史記

大浦

一享保十六年庚子三月廿二日

云子八月廿九日山東北震之波之至城并致家及
之波之候山東北震之波之至城并致家及
之波之候山東北震之波之至城并致家及
之波之候山東北震之波之至城并致家及
之波之候山東北震之波之至城并致家及
之波之候山東北震之波之至城并致家及
之波之候山東北震之波之至城并致家及
之波之候山東北震之波之至城并致家及
之波之候山東北震之波之至城并致家及
之波之候山東北震之波之至城并致家及

口上見

云子八月廿九日山東北震十二度ほど至城并致
之波之候山東北震十二度ほど至城并致
之波之候山東北震十二度ほど至城并致
之波之候山東北震十二度ほど至城并致
之波之候山東北震十二度ほど至城并致
之波之候山東北震十二度ほど至城并致
之波之候山東北震十二度ほど至城并致
之波之候山東北震十二度ほど至城并致
之波之候山東北震十二度ほど至城并致
之波之候山東北震十二度ほど至城并致

二月

沖名々々

一享學十六年夏年四月每目

一享中朝之物及濟生家之道之然

一沙向以故有行國書心年古抄監修

一齊如善法年之正津月人抄丹壽公為

一乃如善法津法多法進言津法之言

一法中又與之學事也

竟

一濟生乃人馬公

年始每目

右

一乃乃係 大納之指之沙回在物上

一乃乃係神干

每目物上

右回乃

一津惟子年二

福年每目物上

右回乃

一長廣尾原

若氣回神快短
其廣之時物上

一細解字之恒明三

右回乃在書之時
以傳之物上

右同

一 濟方令馬氏

右同

一 濟方抽二

右同

一 朝之折

右同

一 濟方抽二

右同

一 胡服地衣抽二一名

一 呂布一名

一 濟方抽一

右同

一 濟方令馬氏

一 虎皮中板

一 人參中板

右同

右同

右同

右同

右同

右同

右

一 善字樣

一 濟字口全馬火

右

一 大細字樣

一 翻紋十字

一 照布十字

一 照布十字

一 千細字

一 濟字一

右

一 善字樣

一 照布字

一 千細字

一 濟字一

右

右

一 善字樣
一 照布字

右

大德書錄

右通判人對馬守神正法公事申道
神正法公事申道

日

對馬守

享保十六年五月廿七日

敬梅不首月次法部仕以賴之書付法
部系之政小野治之金部力之輕之浦地系
出之紙以之清願者之如之沙用書
松平之守之監務之抄系之如之抄
堂之抄之彼方格之抄通之無之抄
抄中之一中治之守之抄系之抄
之抄之抄書之抄

元

和儀家譜注し礼一と云ふ此以後
其旨は乃毎月改し以禮一と云ふ事
此の以後は同く心

四月

沖名

和儀家譜注し礼一と云ふ此以後
其旨は乃毎月改し以禮一と云ふ事

一 享保十六 辛未 四月十二日

長政梅沖嫡子子。和書は和書一と云
少者乃乃大上。和書は和書一と云
和書は和書一と云。和書は和書一と云
和書は和書一と云。和書は和書一と云
和書は和書一と云。和書は和書一と云
和書は和書一と云。和書は和書一と云

先朝鳥子。寶子。和書一と云。享保十六日
和書は和書一と云。和書は和書一と云

多頼のいし

五月十三日

沖名沙路判

松平右近將監殿
酒井徳政守殿
松平伊豆守殿

石村紙沙上某世に到紙と少事と紙に
と下とつちあると少紙上包との紙と包と
と云ハ紙書京一書裁に

一享保十六年亥子六月十六日

殿様御殿より修かきく山南此沙路致駕
本号終山紙紙夜々々山平分方々々也
山平上書お徳山用番酒井徳政守御山
た吉持衆山平以右某十右邊山平上書
と紙荒増しはとお後山慶山修及真山又
山平山平上書徳政守御山平上書
山平山平上書徳政守御山平上書

口上光

私儀今夜玉許とて山根敷下迎へ清
富此交足はは物支私儀常署と痛非
高後之縁り是親しき事と本号終之
署親し遠哉少先少号沙障後言々
本号終之縁り後及はは限を頼る

迎

六月十二日

沖若

右紙は左巻と右巻の宛て異なる事と口上光沙各書載候

一 享保十六年 庚申六月十九日

〇 御座りて封言名所用番酒並強及
〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

私様子同苗保一書之末十六日

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

沖日見を教へぬ

六月十九日

沖名

右料紙に言生初之の紙に書色と云ふ
沖名斗

一 享保十六年五月廿六日身自兵庫

能くもなれり申す中より名も申す
方へは申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す

おんたふ

宗對馬守

方照

實父刑部大補義真

六男

生良母

家女

実母

双上

古料紙子書事切之み減るる色と云ふは是れ
斗之我之文何村書らるるに云ふ

一享保十六年庚子六月廿六日

若殿様之旨由月次沙羅堂量城表後之
沙羅書由用番酒并樽取之儀に云ふは
力後之細井左衛門尉格に云ふは
沙羅之字之度又沙之字に持表之云ふは

此邊若身印集儀之也

若殿様之旨由用番酒并樽取之儀に云ふは
此處左衛門尉格に云ふは
若殿之度又沙之字に持表之云ふは
若殿沙羅書之記之

同氏沙羅一儀之旨由月次沙羅日
出仕之仕度之類に云ふ

六月廿六日

清若

石料成事古事如修之為法紙之書也又上書
沖名并書載結

一享保十六年六月二日

長敏様沙袖多し沙何書と御の用
番様年作多し御の
少中より名成り
と方御用と紙

礼婦子沙一糸袖乃多夜多
し後身何の紙

五月廿七日

沖名

古料成事古事如修之為法紙之書也又上書

一享保十六年庚六月二日

若殿様より書付申渡り申付御返之候
方々申付用度申渡り申渡り候御返之候
長年申付書付申渡り申渡り候御返之候

一享保十六年庚六月七日

若殿様より書付申渡り申渡り候御返之候
公方様 大納言様 河成 遠清 河成 河成
以来 若殿様より書付申渡り申渡り候御返之候
殿様より書付申渡り申渡り候御返之候
大納言様 河成 河成 河成 河成 河成
河成 河成 河成 河成 河成 河成 河成
河成 河成 河成 河成 河成 河成 河成

口上光

公方樣 大納言樣 沖成 遠清河津樣
公方樣 大納言樣 沖成 遠清河津樣
公方樣 大納言樣 沖成 遠清河津樣
公方樣 大納言樣 沖成 遠清河津樣

六月二日

沖成

右科紙書書中如德意成之書也又上書口上光
御名書款統

同日松平伊豆守權少輔公方公成遠清河津
一人子如如中一書身大浦伊豆守致事之知

之細若如公成

美殿樣 沖成 遠清河津樣 遠清河津樣
先親致味書身公成遠清河津樣 遠清河津樣
車長山申中達子如成

義倫樣 遠清河津樣 遠清河津樣
遠清河津樣 遠清河津樣 遠清河津樣
遠清河津樣 遠清河津樣 遠清河津樣
持卷山申中達子如成

以慶代以米對馬寺初在佳二月以終
登城後分相河中以有馬中務之補檢方
義合以受沙初在佳二月以終以登
城以後分沙初在佳二月以終以登
書分步以如有馬中務之補檢方
少之八初在佳二月以終以登
合書分步以如有馬中務之補檢方
書分初在佳二月以終以登
少之八初在佳二月以終以登
合書分步以如有馬中務之補檢方
書分初在佳二月以終以登

完

公方樣之細言樣法成還清河以終
之義代米對馬寺初在佳二月以
沙初在佳二月以終以登
中務之補檢方以如有馬中務之補檢方

右様と申す松平忠松松月公出札の御返
沙汰様は伺取申上り申上り候

宗對馬守

六月六日

上浦江之集

右様御申上り申上り候へども御返申上り申上り候
書載候

一 享保十六年庚申六月十日

殿様口 宣沙汰様御返先程候御返

沙汰様御返申上り候御返申上り候

沙汰様御返申上り候御返申上り候

沙汰様御返申上り候御返申上り候

沙汰様御返申上り候御返申上り候

沙汰様御返申上り候御返申上り候

上

私成侍候又修方公の 宣波及載の
清徳とあるお勤下り名先耐島守清
又修方公の 宣波及載の
清徳とあるお勤下り名先耐島守清
又使れり上り名先耐島守清

六月四日

清名

右料紙等十書も初りの成りもたてり上り清名

見え

松平土佐守
松平法路守
松平信法守
有馬守督守

右に仕立口 宣波及載の
お勤下り名先耐島守清

とらたんとおひまひま 高しはたかきしはたか
とらたんとおひまひま

糸一匹

六月十日

大浦地

大料紙中より書生切りの紙をまき色を
書載

一享保十六年六月十二日江戸町番松平

侍より候上大浦地をたつたおまはり用入書

十右衛門 江戸町番松平一ツ高の御様へ

物々々々新島と後連中へ書付し候上

方々々々書付し候上 此成牙

迄云々候上 此成牙

列見候上 此成牙

此成牙

来十六日江戸町番松平へ書付し候上

此成牙

六月七日

沖名

上村成重とていふの成...
義

一享保十六年七月十日

由用入身村又らるる

はるる...
由用入身村又らるる

何事か用事あるか
先づ一撃行進するは用番の言ふ事
しるすに申すに
海軍の言ふ事
對馬を及ぶは
かゝる友の事
使をらるる事
皇軍の信守

以上云々

對馬を捕ふは一年以内の事
馬代城上の江及石の事
此の事の上は
ある事動する事

宗一

七月十二日

平山左吉

自將又與之... 西後山口... 正領書... 中... 子... 子... 子...

是

公方柳 大紀之柳... 年...

朝... 為... 度...

六月廿日

柳

料... 上...

嘉保十六年... 七月廿九日

五上柳坂 取梅八朔 及抄之江守
一後法公之書を以て之を以て之を以て
方一通相港八月に可者酒舟港及取
英安夜書島を於平少のりを抄集港及取
之を以て之を以て之を以て之を以て
三果田清り方之を以て之を以て之を以て

是

公言梅 大相言梅の八朔 及抄之江守
一後法公之書を以て之を以て之を以て
一後法公之書を以て之を以て之を以て

宗一

七月廿九日

平少のり

英安夜書島を於平少のり

公言梅の字跡を以て之を以て之を以て

抄

高乃之使者在之... 由舟太... 漢... 歲...
 之... 使... 書... 相... 州... 官... 制... 書... 之...
 亦... 係... 之... 州... 宰... 在... 之... 監... 換... 去... 南... 江... 漢...
 相... 亦... 有... 中... 之... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...
 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

昔馬島儀七月四日國許到名仕... 係... 係... 係...
 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係...

未... 皆... 北... 日... 者... 之... 法... 公... 地... 歲... 端... 午...
 沖... 日... 書... 項... 載... 法... 法... 之... 使... 者... 七... 月... 十... 八... 日... 國... 許...
 亦... 稅... 亦... 亦...

使... 到... 者... 之... 法... 日... 之... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

八月廿二日
 宋書馬島...
 南... 亦... 亦...

是

河内書云... 由右... 廣... 使... 宗... 平山... 宗... 平山... 宗... 平山...

享保四己亥年四月廿五日

右先對馬与家督初河内書

項戴法禮之使札...

八月廿三日 宗... 平山...

享保五己亥年九月十三日

友探... 河内書...

上... 河内書...

同公之御書を奉りては、先づ御書に御返答
候方之御書に、同公の御書に御返答
書付、對馬守に、平七郎重実、御書に御返答
平七郎重実、御書に御返答、同公の御書に御返答
たれど

松儀家督以後初、御書に御返答、平七郎重実、御書に御返答
為、平七郎重実、御書に御返答、同公の御書に御返答
修、同公の御書に御返答、平七郎重実、御書に御返答

頼い御書

七月卯

宗對馬守

右御書に、御書に御返答、平七郎重実、御書に御返答

先

宗對馬守御書に御返答

古川御書

沖目守之御書、同公の御書に御返答、平七郎重実、御書に御返答
沖目守之御書、同公の御書に御返答、平七郎重実、御書に御返答

後
大納言梅之
九月

九月

押紙中より上をとりて紙に書き上りて之を
大納言梅之に同様のものを書き上りて之を
大納言梅之に同様のものを書き上りて之を

之

宗村馬場御用紙

古門馬場

沖目御用紙
大納言梅之

之

大納言梅之

九月

大納言梅之

大納言梅之

大納言梅之

之

對馬島之南へ一千年其層付の...
 心月申一系勤行指主物由二月...
 沙眼之每下身心山後多指力...
 也之公也
 宗對馬島白

九月

年心白

右の年言九月申年...
 分遠へ...
 口能古少...
 山用番...

年言九月廿二日

以上

對馬島の家格...
 去る心...
 少後...
 通心...

九月

年心白

宗對馬島白

有言沙用者如平信等字樣曰平心以爲之
沙五路一和又七言而信也海軍之級

享保十六年言人九月廿四日

河國田代英東大坂家門改而海目錄
物書來信之趣以在書或通河平信
亦信今日切支丹以改與津能也其信
亦不仔細者其信極富其德其信亦能
其信也法用人保其章志也仔細者其信也

中瀨沙一為之而信者其信也其信也
信者其信也其信也其信也其信也
沙平書其信也

一切支丹家門改而無懈息今以改
中非其年也 作出以法法度書

類沙相守私膽中其信也其信也
遂穿其家門者其信也其信也
其信也其信也其信也其信也

口元以事

一 古切支丹之類能之者其書之訂印
總交及子之存下事

一 願中在之可之家中之者より
多のより之若世以後不之成之
於之十七早連下下達事

心之

享保十六年七月廿六日

清谷 清谷判 清谷判

具津能也之反

亦下仔細考之反 一減

亦下仔細考之反

具津能也之反 一減

亦、梁書符之類之類文字別之味多し中より
讀合際分入事一

一京傳十六年五月六日

「美友極少縁此道彩々色々」抄書り方

及極少節々々々用書極列極々々々平山
右書極書々々思々々々如回七々々以道極極々々
之修書々々々々々々々々々々

望

對馬守備子江一編組預之道々後出々々々々

^後對馬守備子江一編組預之道々後出々々々々

望

十月六日

平山守備

一京傳十六年五月九日

「美友極少縁此道彩々色々」抄書り方

及極少節々々々用書極列極々々々平山
右書極書々々思々々々如回七々々以道極極々々
之修書々々々々々々々々々々

同姓一儀采發為

取友々々々々々々々々々々

望

九月十三日

宗對馬守

一 享保十六年八月十三日

美濃縣守松平定房様

厚禮申上候事 貴方御座候事

并先例古書御座候事

御座候事 貴方御座候事

御座候事 貴方御座候事

御座候事 貴方御座候事

御座候事 貴方御座候事

望

御座候事 貴方御座候事

御座候事 貴方御座候事

御座候事 貴方御座候事

宗對馬守

梅田重雄

十二月廿一日

先物言
之

之編十二亥年一二代先之對馬島沙流
見物之終身所經之山下之長由序又
刑部之捕方之形札之終止之望

十二月廿六日

對馬島
梅田富太郎

右新紙中より古き印色之紙之具也

一享保十二平亥十二月廿七日浦者探
候書之形也 古書之居平山古台物系也
沙流書二道左記

貞享元子之三代先對馬島之長河原
沙流中より古き古き書之形也
三代之對馬島之初發の頃之形也
長河原の例也

公方探

一 沖太刀一腰

一 時服五

一 沖馬代黄令十兩

沖着振

一 浪子五枚

浪三枚

目二枚

目三枚

沖着振

沖着振

右三首相持

高安對馬守之任侍長の意を以て

秋之徳

公芳振

一 沖太刀一腰

一 端向五卷

一 沖馬代黄令十兩

新着振

一泚方刀一腰

一泚馬代黃令十兩

浪之夜

沙城沙草

回之及

沙城沙草

古之及

以反所之物

泚蒙中極如

十二月廿二日

上

二伐先對馬

行自公家

一程波

沙禮

下注

宗對馬

十二月廿二日

平山左云

享保十二年三月廿一日

「所用者如平作等物今雖對面之役不違
此等物如方物等也」

是後極之如所對形之河等之
所及之如所書之如所及之如所書之
如所及之如所書之如所及之如所書之

以上

社長家父 修身社之守長 尾原守

任官之儀に就ては、
御之儀の上

十二月廿八日

宗刑部左衛門

右様
宗
上書

享保六年十二月廿八日

正月御用者相平左衛門
伊予守左衛門

御用者相平左衛門
伊予守左衛門

伊予守左衛門

公方様 大御言様
御用者相平左衛門

十二月廿八日

宗刑部左衛門
伊予守左衛門

口上之

大納言様は年改り御用事御成り候へば二月廿九日
お納言の御成行を申し上る候と

十二月廿八日

梅田富太郎

右每番候

折渡行候中より七番御成り候候と申候也

享保十七壬子(丑)正月十六日

物部國慶寺乃為魚池に漢民十一人集
坐一被をこし十月三日封列忌多會酒
酒を仕度系沙後自ら相附言送還作同
江家乃言候し七民十人坐一被をこし
九日長列の用見候節に酒を仕度送還
云送還の旨候禮書系議し返簡之旨
并漢民のし書之通也又

殿撰沙遠... 胡解... 洪平... 抄本... 史文...

河内縣志...

對列... 河志... 胡解... 洪平... 抄本... 史文...

他...

深民...

對列... 胡解... 洪平... 抄本...

胡解...

一... 胡解... 洪平... 抄本...

中少ノ漂民ノ事ハ九月廿八日十六日
 一船ノ東進力漢沖ニ至ル事知ル
 西風浪高地方漂民ノ事知ル
 又浪高月三日雨少
 見舞漂民ノ事知ル
 東進浦ノ事知ル
 沙流池ノ事知ル
 岸ノ事知ル

一 我ノ事多ク成ル事ハ沙流池ノ事知ル
 新進ノ事知ル

漂人ノ名并ノ事

年二十九
 同四十七
 同四十二
 同二十六
 同二十六

金ボロムソイ
 韓カムサニ
 合マシニセ
 浪ノクノギ
 刺ヲトギ

目二十六
目二十九
目二十三
目二十二
目十八
目十六

船具并荷物

合クムイゼ
寝クムトギ
朴バグ子
鄭ゾア二
崔ゾイベギ
合アレシヤキ

一 船二艘

七寸七寸
横二寸
深一寸五分

一 帆二張

一 檣一杆

一 櫓二枚

一 舳竿一杆

一 網三十六枚

一 魚笊十枚

一 簪三枚

一 魚釣道具十等

一 斧一挺

一 飯碗十一

一 小魚六

一 小刀三本

望

戊
十月廿日

冲書筒箱上書

長列內月人信那漂去之胡餅人送書
作才長禮曹奏議之返物并別物

他已一引之德

漢民口書上之包

一秋之廣胡那之江東乃之國之城之
七民之自法之在之十二月共寫一紙十人
並地乾魚之換因乃之國之海之
不載因乃之日信之如法之
列之在地方漢民之
以有之風漂流法之月九之長列信那
中而之漢之法之知漢人書之
法之

二月七日長崎より船に送旅津の事
此の事より書信浦の行りし事
長崎友友帆の百射厨の事
船中より所々地をとりし事
一様の家名を以て家名沙の事
親を
新造と云ふ

澤民の事

年五十六

尹テクレン

同五十三

張トルサニ

同五十二

合テククテク

同五十一

車マシヘキ

同五十二

申カイトキ

同五十八

申ツブシ

同五十九

黄ソイ

同六十

朴トルソイ

目二十八

目二十二

器具并荷物

目二十九

目二十七

一 船二艘

右ノ船二隻
横子又三ノ守
源ノ守人守

一 橋二舟

一 櫓二枚

一 櫓七枚

一 舟二隻

一 帆二張

一 水筒二口

一 燈二口

一 巻子一枚

一 舟中一枚

一 笠四口

一 舟中二口

一 蓑一枚

一 湯二

一 子奥八十三疋

一 垣奥十五疋

一 白糸一俵

一 糸一俵

一 小笠三

一 布二疋

一 布風呂敷三

一 飯椀八

一 幣十疋

一 茶碗八

- 一 手抄之物三十二
- 一 鹿丁一殺
- 一 抄本十枚
- 一 稿二
- 一 四十枚

坐

亥四月七日

御法沙連狀左記

一 某沙改告上之胡解國長又尚公為國長
 漢長十人 某如一校之校員去十月

三日對列之月志多矣 河改海之
 後人對馬島 相副使者 送在
 後禮當春儀 返河改 某之 傳力沙
 按見源氏之書 并 聖之 物書分
 抄原方之 心也 始

十一月廿二日

松平左邊將監校
 酒井澄之丞
 松平伊之丞

一筆以改也之非胡解國以公道言也
七長十人亦如一般書之正月九日長列
之月見將歌之改書之月長十人書
長海正書之月相送古統之書
私書之月之書後步相副使之書
非之月改禮曹亦改之書
力轉見原民之書其私具之物
書之月改禮曹亦改之書

十一月廿二日

一筆九進之書
酒并禮改書
一筆十書之書

一筆改書之非胡解國以公道言也
非通家書之相送古統之書
不相習之書
非之月改禮曹亦改之書

為山持見今乃之... 必皆... 〰

十一月廿八日

松平九郎將監役
江戶... 〰

吉野... 〰

谷禮曹日告龍襲使之書并別幅

日本國對馬州太守拾遺平

義誠

奉書

朝鮮國禮曹大人 閣下

薄寒 緬惟

貴國輯寧慰豁倍常

本邦無為爰

貴國慶尚道盈德漁氓拾壹名共坐一船本年九月

二十八日出海捕魚西颺暴起檣舵摧損回濟失

術本月三日漂寄弊州志多賀浦仍資與絮廩修

理船械以送還之別楮微物

麾頌幸甚統觀

盛諒肅此不備

享保十五年庚戌十月 日

對馬州太守拾遺平 義誠

別幅

彩畫有趺大圓盆拾枚

彩畫中層匣壹備

黑漆華箋匣壹箇

整

享保十五年庚戌十月 日

對馬州太守拾遺平 義誠

朝鮮國禮曹叅議沈 垞 奉復

日本國對馬州太守拾遺平公 閻下

槎便帶

書憑諦

興居冲裕慰浣良多漂民既蒙

廩濟又

勤津送

隣誼采篤欣謝無已

厚貺謹領薄儀回敬統希

崇照不備

辛亥年三月 日

禮曹叅議沈 垞

別幅

人參壹觔

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿紬伍匹

白木綿拾匹

黑麻布叁匹

花席參張

四張付油菟貳部

黃毛筆參拾柄

真墨參拾笏

際

辛亥年三月 日

禮曹叅議沈 竣

日本國對馬州太守平

方熙

奉書

朝鮮國禮曹大人 閣下

暑令初頒逖惟

貴國阜和曷耐騰懼

本邦同泰繫

貴國江原道高城之居民拾名駕壹隻船去年十二月二十四日往于同道蔚珍既而又欲赴于他村而同二十八日開帆猝遇颶風尾木已損無術回船放蕩洋中本年正月九日隨風漂抵

本邦長門州見島郡州守矜卹送諸長崎廳司檢案

速啓

東武照例附吾有司本月六日解達弊州仍賑口體
修本船使橘孝顯護還些錄表信
麾置是幸統凱
雅諒肅此不備

享保十六年辛亥四月 日

對馬州太守平 方熙

彩畫有跌大圓盆拾枚

彩畫華箋匣壹箇

彩畫五寸圓鏡壹面

整

享保十六年辛亥四月 日

對馬州太守平 方熙

朝鮮國禮曹叅議柳

儼

奉復

日本國對馬州太守平公閣下

星使遠辱

芳槭隨至就審

動止清裕慰豁良深漂氓既蒙

廩濟又煩

津送苟非

隣誼安能臻此矧伊

嘉貺感荷無已茲將等儀聊表鄙忱統希

崇亮不備

辛亥年五月 日

禮曹參議柳

儼

別幅

人參壹觔

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿紬伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油苞貳部

黃毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

際

辛亥年五月

日

禮曹叅議柳

儼

日本國對馬州太守平

方熙

奉書

朝鮮國禮曹叅判大人 閣下

穀雨迎晴蕙風扇暖伏惟

貴國寧晏翹祝無疆爰先太守客冬纏患胤子弱齡

未任紹述深為之念是故遺語聞于

東武願不佞為嗣比日

恩命新降幸纘先緒通誼之職仍貫掌管承此肩鉅

自愧譴劣仰冀自今已來

兩國修好不變舊約彌之彌篤也幸不佞

垂眷則感蔑以加焉仍差正官平誠一都船主藤
兼雄專陳此意別幅涼儀聊表微忱切希
莞留更新祈若時

珍頤肅此不備

享保十六年辛亥三月 日

對馬州太守平 方熙

貼金小屏風貳雙

水晶笠緒參結

彩畫衣桁壹脚

革裏大薄匣壹備

彩畫累合硯匣貳備

彩畫壹尺奩鏡壹面

青金火爐貳圍

際

享保十六年辛亥三月 日

對馬州太守平 方熙

別幅

人參貳劬

虎皮貳張

豹皮貳張

白苧布拾匹

白綿細拾匹

黑麻布拾匹

白木綿參拾匹

花席參張

四張付油毛參部

黃毛筆參拾柄

真墨參拾笏

際

辛亥年五月日

禮曹參判李

廷濟

朝鮮國禮曹參判李

廷濟

奉復

日本國對馬州太守平公

閣下

惠价致書忽承

先拾遺哀訃追念

舊好驚怛曷已仍審

新承世爵克闡

先懿欣賀之極莫罄名言

兩國修好之義敢不奉以周旋期於永久也

厚賜多謝

盛眷薄儀庸仲回敬統希

崇亮不備

辛亥年五月 日

禮曹參判李

廷濟

一 嘉保十六年庚子十二月廿三日

伊豆守松平公重右衛門左衛門守

沙月書之在元記

貞享元年子之次元對馬守

沙禮也上之在元之通致之記

三代之對馬守之初友侍從

云任河東守

公方棟

清右刀一海

時服五

清馬代黃令十支

清左指

浪子六枚

浪三枚
日一枚

日一枚

清左指

清馬代黃令十支

右...

清右刀一海

時服五

清馬代黃令十支

清左指

浪子六枚

浪三枚
日一枚

日一枚

清左指

濟方卷一

濟馬代黃令十五

液二枚克

沖城沙中

回一枚克

沙養法中

石之膏如信

世及獻之物乃之佳名是又

濟方卷中存之物乃之佳名是又

望

十二月古音

上

二代先射馬也元派十也子侍後

行自之是國新實又刑部之捕方

心使札沙禮也上之龍紋三千先沙

一程汝物也上世及沙一京京

沙禮也先射馬也子乃心使札沙

公仕心世族之私心也

十二月廿五日

宗對馬

平山九吉

享保十七年正月十八日

胡辭也之記也之記也之記也

沙使也之使也之使也之使也

淨法通稱也其也其也其也

是也其也其也其也其也

之臨也其也其也其也其也

之也其也其也其也其也

若也其也其也其也其也

也其也其也其也其也

也其也其也其也其也

一 津边指矣... 延前... 子...

一 弟乃攻... 妃... 對馬... 參議... 披見...

十二月九日

松平... 酒井... 松平... 人...

上

朋... 先... 書... 朋... 先... 書...

口是湖上之數列... 後之少被見方... 去所之...

正月十八日

榎口富子

送物者之上書

答禮曹吊慰使之書并別幅

朝鮮國禮曹參議俞

命凝

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公

閣下

皇天降割

聖母昇遐中外普勤攀號莫逮茲蒙

專价遠致

言慰彌切感愴良荷

厚誼賻儀謹卽

啓納別幅用伸回敬統希

崇亮肅此不備

辛亥年二月 日

人參參劬

虎皮貳張

白苧布拾匹

黑麻布柒匹

白木綿貳拾匹

花席拾張

四張付油菴參部

黃毛筆肆拾柄

真墨肆拾笏

際

辛亥年二月 日

禮曹參議俞

命凝

享保十七壬子五月廿日

書奉判使梅原孫全 宣長後由子

二月拜國返梅原孫全 拜古用書酒井

後夜登堂 宣長 宣長 宣長 宣長

持系山月人 去歲主慶 而後山返梅

并山山書 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

城山乃山山 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

呈呈元

料紙也書也切也也也也也也也

私儀胡能法用然家 終公彼也無用

予始之然使也乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

參判返商改

之

六月

沂石

返商入袋并箱押紙書付在紙

朝鮮通用名書之袋中送付後禮曹

參判之返商并別幅

朝鮮國禮曹參判李

真淳

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

樣便鼎來

華札隨至備語

興居若序清福良慰遠忱新鑄圖書謹附

來价諸品

珍貺感領

盛意略將別幅庸伸回敬
肅此不備

辛亥年十一月 日

禮曹參判李 真淳

別幅

人參貳觔

虎皮貳張

豹皮貳張

白苧布拾匹

白綿紬拾匹

黑麻布拾匹

白木綿參拾匹

花席參張

四張付油花參部

黃毛筆參拾柄

真墨參拾笏

際

辛亥年十月 日

禮曹參判李

真淳

享保十七壬子年十一月廿六日

以友

有章院在河內

若殿極法沙羅系法將等能為此生

人目對上回月路之似人浦水事表波

系之元之口之書一通抄系口及天皆

平心高之口法口之書一紙口口

中達之卷之口口抄法口口之為口

口口口口口口口口口口

同日對馬と船高刺参勤と
未上と以左と也女九日端上と

沖参福と参徳系私相勤と

四月廿五日

宗刑部補

右と書事知渡と書渡候と書也

享保十七壬子三月廿七日

三月廿六日と但世刻と同日午刻と

沙至大火災と辰出ると冠御と

凡と書事知渡と書渡候と書也

禮及書事知渡と書渡候と書也

改書系用人と書物清浄と

書事知渡と書渡候と書也

子海と書事知渡と

以上

對列府中先月廿六日世刻と

列参及清廷可覺と中行余改燒

望月廿一日午刻火燒心口上級非
此辰早未速死如と云之先怪人
牛馬等と死矣敷焼と遊敷候
未得とのおお知と云と先此辰等
と上と遊と毒と候と云と云と云と

四月廿八日 家對馬守

同十七之五年一月廿日

此辰早未速死如と云之先怪人
牛馬等と死矣敷焼と遊敷候
未得とのおお知と云と先此辰等
と上と遊と毒と候と云と云と云と
沙歩の形を遊と云と云と云と
俄少出動と云と云と云と
依と云と云と云と云と
河と云と云と云と云と
よの少能書つと云と云と云と
此の形を遊と云と云と云と
少用と云と云と云と云と
此と云と云と云と云と

少孫孫禮節... 禮節... 禮節... 禮節... 禮節...
禮節... 禮節... 禮節... 禮節... 禮節...

五月節日

享得十七壬子の二月十日

清運堂の法華堂の先達より
宣旨の程又書付の法華堂の筆力
其の道お魂今非の目後海津津
指信書おおとて七友久藤山云々の
お城の事又お後非の事と書付
之入の事なりと出るとは
未だ清運堂の事なりと書付
と書付の事なりと書付

いし

對品府中先月より
風列の事付金可成る事
燒失の事なりと別
札の事なりと書付
未だ死の事なりと書付
未だ死の事なりと書付

中上之遊... 毒田... 後... 口... 子... 子...

四月廿八日

宗對馬

元

一家數或百八指九形 傳島浦

一回或百或指形 中是經紐

一回之指六形 如者

一回之百指六形 町家

島島數千七百七指之形

介

一三ヶ不 神社

一或指一ヶ不 七荒

一或ヶ不 宰屋

一燒死人九人 町或人男 町或人女

一牛馬怪我等事

右之對分度... 三月廿六日夜利

公火聖平上別と焼先定公版中致
非为火定之義科と道と清業の
重公公名事。致月書業致法と
清業の心と

育

家對馬

四月十九日

清園火災の事と清園清聖の事と

清園火災の事と清園清聖の事と

万治二年の事と

公儀清園の事と

清園火災の事と

清園火災の事と

清園火災の事と

清園火災の事と

清園火災の事と

必朝のふして、海を、

右横波を、朝は、

波は、右横波を、

持、右横波を、

波は、右横波を、

波は、右横波を、

波は、右横波を、

波は、右横波を、

波は、右横波を、

波は、右横波を、

波は、右横波を、

波は、右横波を、

波は、

波は、右横波を、

波は、右横波を、

波は、右横波を、

ついでにその御旨に依りては、

集人後、其の御旨に依りては、

河原の御旨に依りては、

波の御旨に依りては、

お、浦城海軍、御旨に依りては、

舟の御旨に依りては、

松平の御旨に依りては、

舟の御旨に依りては、

舟の御旨に依りては、

舟の御旨に依りては、

舟の御旨に依りては、

舟の御旨に依りては、

舟の御旨に依りては、

舟の御旨に依りては、

舟の御旨に依りては、

舟の御旨に依りては、

此後ともなる所をいふは、おぼゆるは、後援の如し

し、朝海舟、漢文、在、此、の、米、上、清、水、集

、此、の、書、は、小、の、所、に、在、り、其、の、書、は、在、り、其、

の、書、は、目、録、に、在、り、其、の、書、は、在、り、其、の、書、は、

此、の、書、は、目、録、に、在、り、其、の、書、は、在、り、其、の、書、は、

沙岸に横波を信じて
とせり時流可なり大浦に系有る者
波神ありて波息なり所沙を連り
方へて沙系なり所念ありて
時を流るるありて

りあり。

一所に小中流あり所を大浦に系に流
念に流るるありて

流息ありて波息ありて
度ありて流息ありて
波息ありて流息ありて
とありて流息ありて
波息ありて流息ありて
波息ありて流息ありて
波息ありて流息ありて
波息ありて流息ありて

波息ありて流息ありて

然其後沙米洋領は小島に即ち
沙段と相勤つた事は在家に較ぶ
中人民は少くおれは少くは事
洋領は少くは事は現物も肌體
米穀の少くは事は万治火災の
杉又は少くは事は少くは事
おのれ少くは事は少くは事
少くは事は少くは事

沙米の少くは事は少くは事

育

家對馬

久松元

万治二年十二月對列地
お七拾軒余焼失其後達

上岡羽子年正月七日寅火對馬

殿中、お七、上岡、羽子、年、正月、七日、寅、火、對、馬

海山流潤井雅樂以殿之江波以
洞海自松平江島等處右對馬島以海
山等洋願之江島自東叔去方石島
中石島之大江原如願地於肥前國
唐津江流如沙中石島之大坂江島
少後之島如江島右之江島等處
中石島

宗對馬島

免

宗對馬島義真

隱居後刑部左輔与政

嫡子

宗右衛門守義倫

右對馬島与政

次男

宗治郎義方

右對馬島与政

三男

氏貞武部義家

母對馬守政

四男

梅吉主馬方照

母對馬守

右之海河津守

育

享保七年正月廿四日

殿林江通家と云清海と云如江守守守守

月並清光 城守如守守守守守守守

梅吉高守守守守守守守守守守守守守

對馬守守守守守守守守守守守守守

私改通家今守守守守守守守守守

城守守守守守守守守守守守守守

有公亭。

宗對馬亭。

右亭之石砌之石塔塔上置海神石也 行名之我

早也。

殿棟之痛本之塔之在今日是也

城之在石之大浦也本 法林之在也

法坊之在石之宮門之在也 法林之在也

口之在也 法坊之在石之宮門之在也

法坊之在石之宮門之在也 法林之在也

京澤十七之石之在也

望之元

其子亦為河清被控其屬之...
西許之長康虎原...
以方及長康虎原...
物之新法...
而沙丸...
山...
日...

宗對馬守

一享保十七年八月五日

山國代山願分之人...
切支丹...
伊集持...
山...
河城...
...

對馬國

一人教六千六百九拾七人

内 冬千三百八拾七人男
冬千三百拾人女

對馬國

一人教九千六百六拾四人

内 六千百六拾四人男
四千二百三十拾人女

肥前國

一人教七千六拾六人

内 四千四百拾人男
武千九百六拾六人女

肥前國

一人教武千九百八拾三人

上縣郡

他 當子年六月八日教改
七歲以上
此處今有推歲以上之書載
其年以實家元之七歲以上
其改年如左

下縣郡

他 當子年六月八日教改
七歲以上
右同

基肄郡

他 當子年六月八日教改
七歲以上
右同

美濃郡

他 當子年六月八日教改
七歲以上
右同

内

千七百四拾六人男

千貳百三拾七人女

人教會貳万二千叁百人

内

壹万肆千三百九拾七人男

壹万千九百三人女

泖朱平地寺社願士也

石志對馬國上縣郡下縣郡肥前國基肄

郡表又郡内宗對馬寺願令男女人教

書面之通也

宗對馬寺

享保十七壬子年八月廿日

左浦仲系平

泖勘定所

料紙行紙帳面也袋上書紙也(但帳面袋各目)

右帳面上書袋上書袋上通也

對馬國

肥前國

上縣郡

下縣郡

基督教

書文郡

人數

之內

宗對馬島

人浦外之浦

享保十七壬子五月八日

因代所領分高長田方出守山内

之辰去元十下波比分書印一紙

抄換元一為出役子務書等為致

抄書内一書身也一也如總出用表

松平江守等役日之也此書表持身

為本十全一之向後抄書等如後

北前國之白領と巻辭並文

兩部換色之費

一回方八千五百九十九石八斗余

右之商賣は福義株と牙換元法に

八月十日

宗對馬

但し換りて八年替り此及之八年五年七及七及之
此替りて八年替りて八年替りて八年替りて八年替り
此替りて八年替りて八年替りて八年替りて八年替り

享保十七年九月九日

沙田田代英京大坂家門改む深目詠詠

例之也此屋上書式也此中紙にお徳と名切書

口改之宅用防古伝中下防古書伝上梅

高古方坊系用防古伝古月人中防古防古

防古防古防古防古防古防古防古防古防古防古

防古防古防古防古防古防古防古防古防古防古

防古防古防古防古防古防古防古防古防古防古

一切支丹家の門徒並に主解忘今以相毀
先年之 法度書 色紙相持
私領中も之を以て之を逆穿穿懸
者下之之至之是又改會撤の毛又不書
者之之之之

一古切支丹之類族之者大常之引
疑之撤之之之

一願中も之を以て之を逆穿穿懸

之之之若此皆不書成との
子之之之之之

之

享徳七年九月九日

沖若 沖若判

三完月防之 一紙
本下之之之 一紙
三完月防之 一紙

右に記す事々於てん様文字別記に味方とてりる後合記
へん

享保十七年十月二十日
白身有馬の御出立
此書と云ふ事乃此の御書

末十日來齋正

所系諸君の良謀を御書と云ふ

月日 所名

享徳七年十月廿二日

と致すは、
胡銘と、
届書に、
持と、
と、
お、
お

山陰志
今度民部
治身先例
告諭

口見

今度民部
治身先例
告諭

十月

十日

心教

享保十七年乙子二月四日

人參中根を束ねて乾し之を片切りにし之を
山用苗松平に浸し之を乾し之を書き置きて右の浦
山を帯持系と云ふは此松平也。勿論此松平は
上達山交真と云ふは此松平也。勿論此松平は
故と云ふは此松平也。勿論此松平は
常と云ふは此松平也。勿論此松平は
如く云ふは此松平也。勿論此松平は

一 朝鮮人參中根七年

右根之儀河津松島丸之産以後穿
如束中子之者水冲和泉之根如親知
亦致效之丸丸之他方根之者全出根之
作後事傳八奉記之四月十日結之也

一 朝鮮人參中根七年

右水冲和泉之根之朝鮮人參中根七年
此用之丸方丸之者丸之方也書傳之根

参中根之者丸之根七年如束中子丸之
和泉之根之者丸之根七年丁未子丸之
古之根之也

一 朝鮮人參中根八年

右之朝鮮人參中根八年如束中子丸之
産以後穿之者丸之根七年如束
中子丸之者丸之根七年如束中子丸之
如束中子丸之者丸之根七年如束中子丸之
如束中子丸之者丸之根七年如束中子丸之

年青方新之信

望

一〇

青月官日

大浦地集

享保十七年十月十八日

朝鮮國公使為道之南川中不之漢民
拾之人系之船之艘之五年十月廿七日涉之
漢浦同道之門機流之漢民拾之人系之無
之艘當當年正月十二日同新浦、海濱、
以村如例大小姓涉核月之之之之之之之
曹之少之之涉海宿武之之之之之之之
或每之之之之之之之之之之之之之之

河留字右極富貴通梓各少及白并
各來求字右及之及清卷之 賦之遊其冠
之如欲求之及之及名推投者之及後今是
各之求教在死之

河書字右極富貴通梓各少及白并

對品送浦、深乞之、物籍人送返、
禮曹參議之、送返并別幅也、
河書字右極富貴通梓各少及白并

對品送浦、深乞之、物籍人送返、
參議之、送返并別幅

一河字右極富貴通梓各少及白并

一河送務二箱 松平作手書

一深民口上書字右極富貴通梓各少及白并

他出科紙服之、
手書也、
手書也、

對品送浦、深乞之、物籍人送返、
河字右極富貴通梓各少及白并

對加藤浦之漢民之物類人口之書并名年
船夫之物之書并

呈上之文

一 朝鮮國之支那道之內南川之漢民拾一人余
船之被去去年十月廿六日支那國同月廿七日對
漢浦之漢民之

一 同支那道之內機械之漢民拾三人余如
之被去去年正月十日支那國同月十二日對
加藤浦之漢民之

右之漢民被圍之送支那國海法禮部奉
送之物之書并結信之為漢浦被之漢民之
之書并船夫之物之書并和法之
之

十一月十八日 宗對馬書

從在書中切德之流紙之書也

朝鮮漂流人口手書

一 秋之俄船朝鮮國長安為道之內南川會中
漢民言其於十月廿六日船拾三人字號漢
民名曰俄俄西國姓曰俄此方漢民曰俄羅
如去之取具之移以對任風漂流流往海舟
七日山より人科は漢民名曰俄對其漢民浦之
中より早速浦人者名曰俄介抱進舟古語會
事俄法此を名付舟のりり俄不波を名

今十日府中 長船社

一 秋之家名之俄民名曰俄此方漢民曰俄羅
念中

亥十一月六日

漂流人名年

年四十

月二十五

日二十六

朴シルリ

楊シヨリ

孫シツニ

同四十

本ボクナミ

同四十七

申クムレヤギ

同二十二

各ルセキ

同二十四

申レナキ

同二十三

朴アレセニ

同十七

ボクナクサニ

同十四

索チルセニ

同十四

今ナヤクニ

和具大并ノ物

一和一艘長サ七尺

一帆或は

一櫓或は

一櫓六挺

一楫一羽

一繩四節

一板一

一網之牯

一釣繩十四節

一鴉二

一水瓶一

一匙十五

一茶碗八

一菓籠十一

一桶二

一芥二枚

一漆之櫃

以上

朝鮮漂流人口名書

一杖之儀物群必委之為道之儀法今亦

漢民之志也其當月十一日幸於拾之令

乃漢民之志也其當月十一日幸於拾之令

以儀物去上楫之儀物任風漂流何日

一 概之宗名之儀は法沙の如く常中親言
 新迦美念之由
 皇恩法
 其旨將分對別經浦、改深流の如く速満人
 其旨之改分執進法法沙中法教法記
 其旨身彼不同十方改を其旨今其旨府中

子

正月廿一日

深流の如く常中

年二十五
 月二十八
 月二十九
 月四十五
 月二十九
 月二十三
 月二十四

深木ム子十五ソ
 今クイセニ
 今クムセキ
 李ブコヤギ
 今ジムドリ
 李セグナミ
 美クムナミ

同二十九

同二十八

同二十五

同二十

同二十二

同十八

永具年之物

一紙五艘長サ七尺五寸

一帆二匹

一橋二丁

一櫓八挺

一繩六房

一鴻一

一笠三枚

一魚釣港十節

一網一帖

一刺也二

一李力年二

一李二二也

一李二二也

一李二二也

一李二二也

一更公苑十三

一斧一槌

一虎了夜

一桶一

望

日本國對馬州太守拾遺平 方熙 奉書

朝鮮國禮曹大人 閣下

日躔在斗伏想

貴國和靖良慰傾仰

本邦亦同就諗

貴國慶尚道南川漁人一舩拾一名本年十月二十七日漂寓醉
州湊浦撤問同月二十六日浮海網魚俄遭風喙帆席破舩
械損流蕩至此云仍救飢寒補摧折附便解遣菲儀中敬

只希涵鑑肅此不備

享保十六年辛亥十一月日

對馬州太守拾遺平一方熙

朝鮮國禮曹參議申

致雲 奉書

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

槎便忽屆

華札隨至仍審

啓居清勝慰浣倍品漂海人口旣蒙

接濟又煩

津遣

鄰誼深篤感荷良深

佳貺謹領薄儀回敬統希

照亮肅此不備

壬子年二月 日

禮曹參議申

致雲

別幅

人參壹觔

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿紬伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油花貳部

黃毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

際

壬子年二月日

禮曹參議申 致雲

日本國對馬州太守拾遺平 方熙 奉書

朝鮮國禮曹大人 閣下

宓惟

貴國攝然

本邦無異欣聳深深茲告本月十三日有壹隻船所棄之

人拾叁名漂到于弊州雞浦詳問原係

貴國慶尚道機張之漁民同月十日海上作業不意遇颶損舵任
吹萍流來云乃資給衣糧繕葺本船而就便津還些錄寓

忱統惟

崇亮肅此不備

享保十七年壬子正月日

對馬州太守拾遺平 方熙

朝鮮國禮曹參議申

致雲

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

槎便遠屆

華槓隨至憑

啓居冲裕慰浼深漂民旣蒙

拯救又勤

資送

鄰誼深篤感荷交并

珍貺謹領薄儀回敬統希

照亮不備

壬子年五月日

禮曹參議申 致雲

別幅

人參壹觔

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿細伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油花貳部

黃毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

際

壬子年五月日

享保十七壬子年十二月七日

因代清原公清換毛五ヶ年並之書付清助
定場清留名居植富富海河持卷等卷

記

肥前之國基肄寺又兩部

高寺方二十四石貳石七斗貳升

享保十二庚申及箇

一五斗貳石五石三升案從小物被除

同十二市〇石〇角
一六千六百六拾二石〇斗二升〇合 他小物減除

同十四市〇石〇角

一六千六百六拾二石〇斗 他小物減除

同十五市〇石〇角

一五千八百八拾二石〇斗 他小物減除

同十六市〇石〇角

一六千六百六拾二石〇斗 他小物減除

合石〇石〇斗〇升〇合 他小物減除

右五ヶ年之平均斗六升

六千七百七拾四石〇斗二升〇合

他小物減除

享保十七子〇

一 宿務反箇

他小物減除

右通沙

十二月七日

御名

他本神紙神村四三德迷目之不表下ノ方
市平判押之上色神紙上事市 市平申裁

一享保十八癸世子二月朔日

胡辨國奏尚道ノ内昆陽ノ土民拾六ノ
宗祀一被去子正月女六日ニ被風回海日
瓶茶波津浦ノ深王同道ノ内長磐有ノ深
民四ノ宗祀去年正月女六日ニ被風二月
初石碓加戸浦ノ深王同道ノ内長磐
深民七ノ宗祀一被去子正月女六日ニ被
風回女九日瓶茶去奥鴻ノ深王結身如

例使去書附彼王日送中必欲禮書奉
議之送簡三箱英源氏以上書三通名
子外取具若為之書牙書原山司書松平
伊豆書後口文若若山月山苗若右之浦伊集
持來書司人書中十卷若山若而後山定
書之也若若若中達若海山若也書
城家山若山改定之書二つ若山若也書
若改書若何家若也紀之

口上又

- 一 胡群國參尚道之月昆陽之土氏拾六人
高如一艘去年正月廿六日之故風回海日
龍米波津浦之改源之志也
- 一 同參尚道之月長繁若之洪氏三合家
之艘去年正月廿六日之故風之了勢
石加加戶浦之改源之志也
- 一 同參尚道之月長繁若之洪氏七合家

一被去○正月廿六日亥放風回廿六日
旆米主東鴻口汶漂志山

右溪民被出上送而山如流禮曹
泰職之延簡書未仕以怨之為信
披見漂民上書英弘具為物之
書付右溪去之山以

二月初日

宗對馬守

右料紙上書書切使使度上書紀法

朝鮮漂流人口上書

一初之儀朝鮮國參尚道之內昆陽
市之去民上書元高子正月二日拾六
去紀宗紀感流道之為高貴子歌心
同月廿六日盈德上書之沖之西風
子家播攝損一但風漂流往回海日旆
米願波津浦口漂志仕山受上送浦人
於去山及人抱法願至板山此乞

九月九日被不^レ知^レ因^レ十六日長^レ表
 弟^レ志^レ於^レ沙^レ事^レ以^レ此^レ味^レ之^レ水^レ修^レ補
 之^レ於^レ當^レ月^レ四^レ日^レ長^レ表^レ表^レ波^レ知^レ昨^レ十
 四^レ日^レ刻^レ有^レ志^レ水^レ社^レ以^レ長^レ表^レ分^レ水^レ中^レ至^レ以^レ
 沙^レ此^レ在^レ身^レ於^レ月^レ新^レ之^レ社^レ合^レ事^レ於
 一^レ親^レ之^レ字^レ旨^レ之^レ儀^レ以^レ表^レ於^レ常^レ觀^レ音
 新^レ迦^レ之^レ意^レ以^レ

源氏名義年

年^レ六^レ十^レ六
 同^レ四^レ十^レ八
 同^レ四^レ十^レ三
 同^レ四^レ十^レ三
 同^レ三^レ十^レ二
 同^レ四^レ十^レ五
 同^レ四^レ十
 同^レ三^レ十^レ七

金^レ七^レ二
 鄭^レ七^レツ^レテ^レリ
 李^レヲ^レサ^レコ
 趙^レセ^レツ^レギ
 朴^レサ^レニ^レマ^レニ
 巖^レ千^レユ^レク^レギ
 金^レニ^レタ^レリ
 李^レセ^レム^レア^レニ

同六十八
同三十八
同四十四
同五十八
同二十八

張三十一キ
金ヲキ
姜マシフキ
金マシクタイ
金モシクタイ

船具並其物

一 船之艘

長廿拾五尺
横三寸

一 櫓二本

一 帆二張

一 櫓六挺

一 碇四頭

一 楫一羽

一 水竿十本

一 繩十口房

一 蓬九枚

一 筵六枚

一 箱三

一 釜十口

一 桶三

一 胡餅菜碗二十六

一 釜二

一 米五俵

一 斧三挺

以上

子
六月十六日

朝鮮漂流人口上書

一視之俄朝鮮國慶尚道之向長署者
 可之漢民之山元以為年正月廿五日
 一取之各地為漢子山元變俄西風法
 此方漕漕山元長船成其之取具換作
 紅月漂流往二月船之期在初加戶浦
 漂至漢口前揚山元取少之換危山元
 早達浦人知會山元及女抱法願至松
 本衣服未取下其之索寒症思命相
 痛山元及法醫師未山元取少之換
 乘取之俄山元換山元解取山元取
 山元預其通山元取山元取山元取
 山元送山元取山元取山元取山元取

沙字乃不亦此味之之有月乃長壽教
如雲昨十乃有對肩玉如紅仕以長壽より
水中修之此乞主乃有粒之結答
一視之字旨之儀最法乃以常觀音釋
迦を念ふ

源氏名并年

年四十一

一新ヲト二

同四十二

一金テビキ

同四十一

金レ十ニ

同三十六

金レユク子ニ

和具英名也

一和洋

一槽口挺

一和道具口通

一桶二

一和二三

一茶碗四

一和四

一折二

一和下一挺

一版次一

望

白六月廿日

朝鮮漂流人口上書

一我之倭船朝鮮國慶尚道之角長嶺

而之漢民之山元山高子正月廿七日人

一私高船為漢子山元山高子正月廿七日人

其具損一此方清考以後行成日風

此因舟乃有號示之內言夏清日漂去此

浦人以此故女抱法願至極之此定以

二月九日被不知取回十日長務表

沙事仍不知其味之之取務備被

終身高月日之長務表知取即十日對

去取仕以長務表之取中至修之此

其終身新之仕合身

一視之宗旨之倭山高子山元山高子

觀音社

金中

源氏名英年

年四十二

姜廿十二

同三十日

姜トヲク

同六十五

姜ソシニ

同三十日

雀セニ

同二十

姜ソシイニ

同二十一

金セニ

器具英年

一氈一被

長サ三丈五尺
横七尺六寸

一襦二巾

一帆一張

一楫一羽

一櫓六挺

一水竿三寸

一履一匹

一繩二房

一蓬三十枚

一細川十筋

一網一帖

一莫釣道具空通

一籠五

一麾下一枚

一 鷓二

一 桶二

一 加子の梳三

一 同靴四本

一 胡餅茶碗七

一 同皿七

一 同德利一

一 同杯一

以上

子
六月十六日

河運物箱押紙并袋書付龙記

筑前波津浦白漆五々胡餅人送物分

從禮曹糸織々運筒并別幅 但一以徳

石列加戸浦白漆五々胡餅人送物分

從禮曹糸織々運筒并別幅 右同分

筑前玄鬼浦白漆五々胡餅人送物分

從禮曹糸織々運筒并別幅 右同分

筑前波津浦白漆五々胡餅人送物分

右年取具物如々書付 右同分

石加加戶浦口

石加

龍米玄叟傳口

石加

右之通一所任新刻色下

上書方之通

龍米波津浦玄叟傳石加加戶浦口

深島之胡餅人上書英名年分

石加加戶浦口之書方之通

朝鮮國禮曹大人

閣下

梅濟遼惟

貴國輯寧

本邦亦然共堪歡娛茲告

貴國慶尚道昆陽居祇十六名乘一船將赴于咸鏡道

本年正月二日發船迨本道盈德之前洋屬颶急

起已損檣柁放蕩洋中同月晦日戾止

本邦筑前州波津浦州主矜憫之送達長崎廳司照

察帛啓

東武遵承前規附吾有司本月十四日屆來弊州惠
衣及糧修補本船今差橘信尚以致送還別錄菲
儀聊旌遐悃

榮畱爲榮摠覲

崇照肅此不備

享保十七年壬子五月 日

對馬州太守拾遺平

方熙

日本國對馬州太守拾遺平

方熙

奉書

朝鮮國禮曹大人 閣下

天時向熱遼惟

貴國緝和

本邦同揆繫

貴國慶尚道長髻畧漁民四名乘一隻船本年正月

二十五日出海治業俄遇衝颶船具折傷無由

回棹漂泛洋中數日二月朔日萍流戾止

本邦石見州加戶浦當斯之時風濤殊惡駕船忽

摧破且冒餘寒各體不調領主深致救濟與和劑
護送諸長崎廳廳司覈察帛轉

聞了隨例附吾家士本月十九日來屆弊州仍賑
給口體船材等併載之於吾州船今使攝恒尚
送達聊具輜儀庸致遠敬切望

莞奴萬冀

照登肅此不備

享保十七年壬子閏五月

日本國對馬州太守拾遺平 方熙 奉書

朝鮮國禮曹大人 閣下

逖仰

貴國磐安就報

本邦砥平粵

貴國慶尚道長馨漁氓壹船柴名本年正月二十五日
出為漁採俄遭烈風船具破碎回撓失術同月二十

九日漂抵

本邦筑前州玄界島州主深加撫恤送諸長崎廳司詳

問事實轉啓

東武憑規附吾有司本月十四日解達弊州仍資與衣
糧繕完船具而今俾平親賢送還焉不腆弊產載在
別楮

麾存至感卽辰蒸濕更希

珍頤肅此不備

享保十七年壬子五月 日

對馬州太守拾遺平 方熙

朝鮮國禮曹參議申

致雲

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

槎便忽到

星槎隨至諗得

興居珍迪慰浣良深漂旼旣

勤濟卹又煩

護還寔出

隣好感荷曷已

珍旼多謝

厚意菲儀略表遠忱統希

崇亮不備

壬子年七月 日

禮曹參議申

致雲

人參壹觔

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿細伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油芘貳部

黃毛筆參拾柄

真墨參拾笏

際

壬子年七月 日

禮曹參議申

致雲

朝鮮國禮曹參議申

致雲

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公

閣下

星槎忽屆

華槭隨至憑審

啓居冲裕良用慰浣漂海人口旣蒙

拯救又煩

津送隣好架篤感荷交并別幅

珍貺謹領

厚誼不腆土宜粗表遠忱統希

崇亮不備

壬子年七月 日

禮曹參議申

致雲

人參壹觔

虎皮壹張

豹皮壹張

白茅布伍匹

白綿細伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油毫貳部

黃毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

際

壬子年七月 日

禮曹參議申

致雲

朝鮮國禮曹參議申

致雲

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公

閣下

棧便忽屆

華棧隨至諗得

興居珍衛何等慰浣漂氓旣蒙

拯濟又

勤護送寔出

隣誼感荷曷已

佳貺多謝

腆眷薄儀聊表遠忱統希

宗照不備

壬子年七月 日

禮曹參議申

致雲

別幅

人參壹觔

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿紬伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油毫貳部

黃毛筆參拾柄

真墨參拾笏

際

壬子年七月 日

禮曹參議申

致雲

享保十八癸丑年三月三日

明方松年修夏中領海門留居樞密司
新置方涉書外之氣涉用人量十在書
若涉若書左記

河東院人當春江戶參上時多以此書
買中甸長濟者及是之氣涉年々之
私承分儀書涉涉涉涉涉涉涉涉

凡年亦多今以中權書公行也
其月初旬也政保書其
快亦成也
丁巳年世後中書主筆不
年亦多也

二月廿七日 沈君

嘉慶十八年七月廿六日
在天津同書樓高公書
海軍部公同書多矣
沈君書之

子孫

于翔

吳中

沈君

大德言德

于朝一節

沙行一節

右之通同者臣初大捕海國之白虎
以使其地之此也三月廿三日
用音泊升海邊及此後生月與此
三月廿三日海邊同此也三月廿三日
之法也

大德言德

一節一節

大德言德

一節

右順令出牙後元知信念之法有
其意之也沙北使念之也其地
之候高年之三年之間右之無
之旨二月廿三日之法也今故同名也

海國紀元... 德富蘇峰

四月

德富蘇峰

享保十八年七月十二日... 德富蘇峰

私領今... 德富蘇峰

四月

德富蘇峰

享保十八年五月二日... 德富蘇峰

此書乃對後清何書者其意亦與前書上
述者之說無異其後清之書其後清之書

覽

一 年頭清太台馬代昔今一取

一 寒暑者乃何清橙始出許產物之內

一 種元

右

公方樣

大德書樣之同氏氏於大補之

策款之可結之者去子十月之內

作之因八日以清所紙右之無能之任

之者其後而者其後之今取須令出付

損毛洋信令其後之其物儀牙

彼作其以清名之其後之其年之

區部其補之其物之其後之其年之

以

二月

清石

覓

公方極口

初群寒盭鴨二
暑氣欲上

大納言極口

右因新

因新

公方極口

朔一折

乞氣欲上

大納言極口

右因新

因新

右之極高年公卯年と乙未年と
主皇者乃何沖極極極上可仕公世極極中

中上公極

二月

沖名

公方極口

約波之極

昆布之極

于翹之相

冲栲之奇

大納言極に

昆布一箱

干網二箱

冲栲一箱

右邊之相區部家督之役初之沙帳

多下也之下也之牙為沙帳之使札右邊

秋之信

公言極に

一箱一箱

大納言極に

一箱

右今般願内出分損毛淨信令之沙帳

左之沙帳之使札右邊之沙帳之信札

二月朔日之信後之信札右邊之沙帳

宗下由元心总住云云乃涉礼儀札然之
物多下住也其同云云

四月

宗對馬守史云

極高太極

派之極元

津島

乃中

今之武元

津島

乃使元

右對馬守史云乃勤之良相猶い外年と
三ヶ年より之の住也其同云云

宗對馬守史云

極高太極

又月

享保中八卷五年六月十日

佛堂中極高太極之立役儀也其
其是之云乃極高太極之立役儀也其

目録
河臨店極口勤
尤迫將
以及次伴
作
以為

今般

河臨店極口勤
極口富
極口富
極口富
極口富

正月

極口富

宗對馬

享保十八年七月二日

殿極口家督初習
仲助二日

作付之書も右極に當るは同及用書
海井漢後書極に同書も右極に平
右京本更極に同書も右極に當る
用書も右極に同書も右極に當る
丸紙

此書は右極に當る
合用書

私儀家督以後初書許は極に當る
書作付為沙札使書も右極に當る
之通 海目見は極に當る

沙札使書も右極に當る
望

五月

海目

右極に當る書も右極に當る
上書海目

見

宗對馬守海目沙札使書

家老

村村仲

抄寫新紙
以舊紙作
清國見
係何物
物之信

清國見之旨自今為之物
清國見之旨
清國見之旨
清國見之旨
清國見之旨
清國見之旨
清國見之旨
清國見之旨
清國見之旨
清國見之旨

七月

右沙月書之粉紙中
書之旨
書之旨
書之旨
書之旨
書之旨
書之旨
書之旨
書之旨
書之旨

覓

宗對馬書
宗對馬書
宗對馬書
宗對馬書
宗對馬書
宗對馬書
宗對馬書
宗對馬書
宗對馬書
宗對馬書

家老

村仲

清國見之旨自今為之物
清國見之旨
清國見之旨
清國見之旨
清國見之旨
清國見之旨
清國見之旨
清國見之旨
清國見之旨
清國見之旨

七月

右抄紙の事 馬田豊前守御前

右梅屋重延の書

享保十六年庚午年 隠居右大臣部大輔家督
初より下沙殿の旨 仰出沙禮之使者
同年九月十二日 沽用番松平伊豆守柳
津重忠が書し 申又同十四日 以沙切紙
不許の事 申之 使者 同十五日

沙城 上 為書 以自合 以沙禮 為 以自
作 申 以 下 同 十五日

沙城 上 為書 以自合 以沙禮 為 以自

伊豆守松浦重書沙流成卷物
并願之經分作以上

宗對馬守

榎山守

七月

此は先親書料紙中守書宗如守書宗一
極名書意と信也

享保十八年七月廿日

松平大膳守其侯之為守右中下之世
之為守右方に以て脚付來りしを松平
左近將監松平守平守人志志秋
出入換色とる方海保令之為守平守
守守右救御死人云々南後書信也
永澤守以候印松平守書守守守守
守守守守守守守守守守守守守守

書分乃公之法... 內... 中... 以... 乃... 汝... 本... 尤...
書分乃公之法... 內... 中... 以... 乃... 汝... 本... 尤...
書分乃公之法... 內... 中... 以... 乃... 汝... 本... 尤...

宋對馬島領分肥前公之門基基辭

書分乃公之法... 內... 中... 以... 乃... 汝... 本... 尤...
書分乃公之法... 內... 中... 以... 乃... 汝... 本... 尤...
書分乃公之法... 內... 中... 以... 乃... 汝... 本... 尤...

子所後

續札之令之下家老老之令也

對馬寺家督初自詳至津統之徒也

津目身之孫領物正作身之徒也

續札之令之下家老老之令也

續札之令之下家老老之令也

宗對馬寺

梅山寺

八月

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

嘉保十八癸丑年九月十二日

清溪庵中極明曉清小庵亦極妙

殿極白之勢之氣以花札之公之作上

以花札之公之作上

清溪庵極白之勢之氣以花札之公之作上

左之極之極事書而德法用書九近而極極

高志是抄余自人地國地志焉

九月十二日

高志是抄余自人地國地志焉

享保中八年癸丑年十月九日

方照林冲臨后涉乾之通之紅生穿
近休乘到使之方派以邊務
一可右之江流沖國之流者身公
以自者海并涉及者使之品富田吉
担白富右之江物之品之江物之品
為者後之江物之品之江物之品

別記
沖邊務書

沖邊務書

朝鮮國之宗氏部之情臨后之役邊
惟自從江浦各判之江物之品
一筆致政之品之品同姓民部之情
臨后之品之品之品之品
亦邊務之品之品之品之品

氏整備方。以便者。是作。及。從
禮曹奉列。送。給。致。書。外。公。德。而
送。授。身。之。身。之。公。德。物。德。之。

八月九日

送休使

大浦忠兵衛

松平九郎忠世
酒井信俊
松平信之

遺禮曹告退休書

日本國對馬州太守拾遺平

方熙

奉書

朝鮮國禮曹參判大人 閣下

歲律云暮龔惟

貴國穆清益勝嘉尚

本邦同軌勿係

鈞抱茲告 不佞 性質柔弱病態漸侵不能兢奉職

繇是今般在

東武荐乞退休辱賜

恩許遂挂冠之願况猶子義如謹奉

嚴旨幸承賞延特候

鄰交之司職一依前規幷蒙所屬銘篆何究自今以
往益篤相好之通誼永祈舊約之不替茲差正官平
倫之都船主平元春佈此意仍錄輜品庸效遠敬
麾雷孔幸萬觀若時
葆毓肅此不備

享保十七年壬子十二月 日

對馬州太守拾遺平

方熙

別幅

赤銅累五盃盤貳部

水晶笈緒貳結

彩畫七寸匳鏡貳面

貼金小屏風貳雙

大和真朱肆介

彩畫華笈匣貳箇

彩畫衣桁壹腳

紋紙壹千片

彩畫書架壹腳

計

享保十七年壬子十二月 日

對馬州太守拾遺平

方熙

朝鮮國禮曹叅判李

春躋

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公

閣下

忽承

芳楫且領

嘉貺感慰交至無以為言曾賴

左右之厚誼久敦誠信今聞令姪之克紹又申舊白盟

兩邦交好可期終始而况

安車就閑付託得宜豈但

一州之盛事其在隣好之情不勝欣賀仍將薄具聊表

謝悃統希

崇亮不備

癸丑年五月 日

禮曹叅判李

春躋

人參貳觔

虎皮貳張

豹皮貳張

白苧布拾匹

白綿細拾匹

黑麻布拾匹

白木綿叁拾匹

花席叁張

四張付油芭叁部

黄毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

際

癸丑年五月 日

禮曹參判李

春濟

享保十八年五月十日

義如棒冲之助替別辨沙及之白家

任公任之生家奉判使正公後海軍

右沙返物一箱文法法法沙及之白

和東三月七日法用青酒并續及之柳

山名白之在柳上首在東之波抄東月人

大東中在東之白波抄沙返物一箱及之

及之白之屬之白波抄及續及之白可

中華書局影印

法道籍代家并箱押紙書封卷

法道

胡辭必之家督之儀中遣以代祀禮曹

系判道籍并別橋地乃以代祀

法道法古記

一筆法改修之作私儀因民部大補

多教以道家督之儀以代祀胡辭

法用不相替家仍原被書以

使古中遣以受代祀禮曹系判道籍

致到身以修之為法教之儀以

法道籍

八月十八日

法道籍

酒井法道籍

松平伊豆守

義慶

平田將監

七月十九日

二月十日

八月十日

此書係在交納所存之三月廿九日
所存之書乃在書外有書之存
此方之存也

日本國對馬州太守四品大夫平

義如 奉書

朝鮮國禮曹叅判大人 閣下

歲律換新必惟

貴國休明翹賀無罄

本邦亦無為而化矣 不佞 上年九月辱蒙

嚴旨承襲前封忻感殊深况舊規通交之職亦累

命司掌自顧庸微何堪負荷仰冀自今而後

兩邦不改先契之高誼益惇永好之至誠敢望曲垂

盛眷則千萬榮幸茲差正官平誠泰都船主平正英

呂告此意仍具菲儀式伸微悃祇希

麾置更新若序

崇衛肅此不備

享保十八年癸丑正月 日

對馬州太守四品大夫平

義如

別幅

貼金小屏風貳雙

水晶笠緒叁結

彩畫衣桁壹脚

革裏大簿匣壹備

享保十八年癸丑正月 日

對馬州太守四品大夫平

義如

和文

一筆令皆之貴國亦之為年古海軍也
在邦若列東之其地也其後之九月
家督之相遠之其後之其後之其後之

通文之儀不亦先朝之世系
家休公自後法事下法公仍公使
正官年海志部世之平正英在後嘉
卜令公將又收少之去空列海之世後
肅此石版

古和文之名世公書上乃先朝之世

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

華槭遠辱備語

襲莅世爵載續

芳緒事從聳瞻聆寔切欣賀况承益敦永好之

示尤可見

篤守鄰誼懋念

先契之義此實

兩國之幸也

惠及珍貺深感

盛眷謹將薄儀庸表回敬統希

崇亮不備

日癸丑年五月 日

人參貳觔

虎皮貳張

豹皮貳張

白苧布拾匹

白綿絀拾匹

黑麻布拾匹

白木綿參拾匹

花席參張

四張付油芭參部

黄毛筆參拾柄

真墨參拾笏

際

癸丑年五月 日

禮部官本判本

春躋

祝文

先禮志波洋見心 冲家替首尾好
 之象仍大受之 之事 之在公受海更
 之儀之親 之亦如也 之儀也
 之清之波之知飲香之 之白之仍之別解
 之通波之仍之公不海

癸丑年五月日

古和文... (faint characters)

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

享傳人... 年十月十六日

苗月十二日... 府內因念

損免... 道法... 書...

書... 道... 今... 道...

道... 道... 道...

道... 道... 道...

苗八月十二日... 對馬

國之凡... 損免... 道...

一田相高武方十音以指字定身身軍

集

一田方十音夫指或心七斗深集

一田方十音九十九音之指字定身身軍

集

一法或九指分新

一田社三新

一田少全冬指三新

一田廐百去指九新

一田堂身全音不三新

一破指或十音或指六新

一田字四指四新

一田社或指新

一田少全音百三指四新

一田廐八百去指四新

一田堂身全音不三新

一彼如人中四德七般

曰三般德如

一損如大小九指五般

曰七般德如

一流指或五般

一流扶才冬百口指九般

一流本冬千百口指五般

一流死馬五般

一流死牛五般

古尔不物或人余言多法公望

二日出一百

清者

此種紙上書字切上包上包環紙上書包

佛名紙

享保中八月十七日

胡解國去又尚道三内橫法三漢英十三人

富如二妙同道三内解心三漢英十三人

宣和殿之殿凡之奉十月廿五日
對列之月泉浦十為廣浦古之
同道之內全之浦之吳氏十二
二殿之殿凡同奉十二月廿日對列之月
法以系浦魁浦古之次廣之能
則之通之相送作之次禮曹在殿之
送物二箱在廣氏之書或如津津狀
或如之書奉之今日津州書海其後殿之
法為書之居之次之廣之津之書之
出多次之廣之書之相送法之
上之書之書之書之法之書之書之
三下中之書之書之書之書之書之

宣和殿之書

對列之泉浦十為廣浦古之
送物之書之書之書之書之書之
對列之泉浦十為廣浦古之
送物之書之書之書之書之書之

漢代以行流傳者自秦魏之世始有刻帖
也

一法書道

法書

一法書法

法書法

一法書法

法書法
法書法

對列象形酒法書之胡解人法書并

名年如具法書之物法書

對列于高法書之原酒法書之胡解人法書

并名年如具法書之物法書

對列法法書之原酒法書之胡解人法書

并名年如具法書之物法書

對列精酒法書之原酒法書之胡解人法書并

名年如具法書之物法書

一筆法法書亦非胡解國廣而之內

棧港... 漢民十三人... 年十月十四日... 波國... 波到... 年如... 也... 也... 也...

宗對馬

八月廿日

一... 漢民十二人... 漢民... 漢民... 漢民... 漢民...

去年十二月廿八日對列乞氏法德等浦
新浦古邑之溪出江惟身相副使者
彼國之送來其流禮曹亦統送物
波到其作信之為法投身人溪民足
書并如具各物之書身如溪亦卷公
也收復之

宗對馬守

八月廿八日

松平左衛門將監候
酒井禮次郎守候
松平伊豆守候
胡解漂流人乞書

一我之溪胡解國乞書尚道三月廿三日
中乞之溪民乞書沙在十月廿十三日
一如乞之溪民乞書乞書乞書乞書
乞書乞書乞書乞書乞書乞書乞書

夜半江風浪流江口日暮
漁舟結隊來入浦人
心公欲卷
非不遠及人元出
同中自德不出如回
自度日浦日暮

一我之家自有
釋如也志也

潘氏若年

年二十

裴二ノセキ

日二十

全アイトキ

日二十

李メノソ

日二十

朴ノ元ナミ

日二十

張ノセキ

日二十

全ヲナキ

日二十

李ヲニユリ

日二十

全ヲルセニ

同二十

子^コッフニ

同十九

張^テルテギ

同十三

慎^シボクセキ

帆具并荷物

一 帆具船

長十石
横式船具

一 帆二張

一 檣二本

一 檣一本

一 檣三挺

一 徳四房

一 徳二房

一 魚釣縄十八節

一 綱一帖

一 縄一

一 舟帆一

一 舟子の船帆十一

一 卷十之五

一 相一

一 卷二

一 本二

一 絶句

一 卷六

一 鹿丁之延

一 少年之

一 息流九

一 望

胡群漂流人口書

一 我之族胡群國度尚道之內屬也

一 去年之流民之法在公十六人一如之

一 十月十日昔為漢之也今以俄西列之

一 亦或將之損地方之清善也及形如凡

一 流民之回生也對列之也為漢清與也

一我之宗首之流也此其常也
新德志

淳長谷平年

年二十八

日四十一

李ハガナニ
合セバリー

同中五

合エゴブ

同中六

合ヨギ

同中

合ニクナ

同中十五

合フニヒ

同中四

合テナクニ

同中九

合アグサニ

同中七

合クムトリ

同中九

合リヨリ

同字三

同字二

同字七

同字

同字七

器具并所物

一 如一被 長方布を云ふ
後三行

一 襦二巾

一 帆二漫

一 様二布

一 指二延

一 巾二布巾

一 後二民

一 信二房

一 水二紙

一 裏二内二絶二巾

朴 シヨクニ

雀 シヨラリ

人 シモグテリ

李 サコホニ

全 シムサリ

一 絶一帖

一 少相八

一 吳孫十五

一 かのの絶腕十二

一 華腕二

一 野十五帖

一 絶半二帖

一 大相一

一 中書十五

一 ありとり一

一 布の家十五

一 蓮衣及

一 笠

胡祥源流人口上書

一 我々胡祥園慶尚道内白室清

漢臣之流沙在公位獲其百餘人
多似如漢之流沙也俄而及漢
地方清野之民難成其橋之役
紅瓦波濤流沙自公位封列位
多清之漢也此非清人之言也
多抱此身流沙人之言也此非
回也九月然也如二月自序清之
法

一我之富自公位流沙之常也
新加之意也

漢臣若年

年之十一

金也

日早

勸也

日之八

朴也

月十三

金也

月十

金也

日字八

日字五

日字三

日字五

日字二

日字五

日字九

如具并各物

木ナミ

全トナリ

全ツンセキ

全ブツツトキ

韓トユリ

骨ツセキ

世ソナキ

一船一艘 長八尺或人
横或心

一椗一石

一帆二張

一櫓二枚 内中一枚

一紐三房

一湯一

一臭丸十粒

一桶二

一 本 碑 文

一 石 刻 一

一 柳 二 方 尺

一 石 刻 之 版 概 四

一 事 概 四

一 刻 十 一 年

一 集 四

一 古 方 寸 中

一 奇 石 庭

一 個 一 帖

一 吳 均 繩 字 子 七 身

以 上

朝鮮漂流人口年書

一 我 國 領 土 領 海 權 之 確 定 及 其 經 濟 之 發 達

一 漢 氏 之 出 沒 及 其 經 濟 之 發 達 及 其 經 濟 之 發 達

一 高 麗 之 出 沒 及 其 經 濟 之 發 達 及 其 經 濟 之 發 達

目字四

目字七

目字

目十三

目字

如具平多物

李イセキ

姜アリム

李セキ

李シナミ

韓メツセキ

一船一艘
長七言

一橋立延

一榭石

一帆二後

一船八房

一破石

一鍋二

一水靴一

一具酒字一

一 敬挽七

一 敬挽六

一 敬挽五

一 敬挽四

一 敬挽三

一 敬挽二

一 敬挽一

一 敬挽

一 敬挽

一 敬挽

日本國對馬州太守拾遺平

方熙

奉書

朝鮮國禮曹大人 閣下

天時漸寒宐准

貴國肅清

本邦輯和共堪騰懼茲諭

貴國慶尚道畿張漁夫壹船拾叁名本月十一日泛海治業西
颶暴起船具已損放蕩洋中同十四日戾止弊州泉浦矣又
同道蔚山居民壹船拾五名同十五日出漁被厲風放同
二十日漂寄弊州千尋藻浦錄是各與絮廩修整正本

船今乃一齊送還焉別箋土宜聊抒遠悰
照入爲榮餘冀循時

自玉肅此不備

享保十七年壬子十月 日

對馬州太守拾遺平

方熙

別幅

彩畫有趺大圓盆拾枚

下野煙盆壹備

享保十七年壬子十月 日

對馬州太守拾遺平

方熙

朝鮮國禮曹叅議李

匡世

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

。 槎便來到

。 星槎隨至仍諦

興居清裕慰浣良多漂海人口旣蒙

拯濟又勤

津遣倘非

隣誼之厚何能及此

佳貺謹領薄儀回敬統希

崇照肅此不備

癸丑年二月 日

禮曹叅議李

匡世

別幅

人參壹劬

虎皮壹張

豹皮壹張

白茅布伍匹

白綿紬伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油范貳部

黃毛筆叁拾柄

真墨叁拾笏

際

癸丑年二月 日

禮曹參議李

匡世

遣禮曹送還金山浦漂民書

日本國對馬州太守四品大夫平

義如

奉書

朝鮮國禮曹大人 閣下

春寒伏惟

貴國安寧

鈞候佳裕傾聳倍切茲告

貴國慶尚道釜山浦漁夫壹船拾貳名上年十二月二

十八日漂入弊州佐須奈浦同道同浦漁夫壹船拾

貳名同日戾止弊州鱈浦審問事狀則共云上年十

二月二十七日浮海漁採俄過西颼帆木摧折回撓

失便放漾到此仍給與衣糧修補船具一併送還焉
薄儀表悃更冀

崇鑑肅此不備

享保十八年癸丑正月日

對馬州太守四品大夫平

義如

別幅

彩畫有跌大圓盆拾枚

粹鑑大清皿拾箇

彩畫五寸匱鏡壹面

計

享保十八年癸丑正月日

朝鮮國禮曹叅議金

啓煥

奉復

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

星槎鼎來

芳槭隨至憑諦

興居清迪慰浣寶深濱死漂民幸荷

廩絮遣還之

惠隣誼采篤感謝何旣別幅

珍品拜嘉

心貺不腆土宜略伸回敬統希

崇亮不備

癸丑年四月 日

禮曹叅議金

啓煥

別幅

人參壹觔

虎皮壹張

豹皮壹張

白苧布伍匹

白綿紬伍匹

黑麻布叁匹

白木綿拾匹

花席叁張

四張付油花貳部

黃毛筆參拾柄

真墨參拾笏

際

癸丑年四月 日

禮曹參議金

啓煥

高宗十八年世歲十二月六日

田代法領令南中友早懸亦續其

八月十六日去月為右通損元有

作後田代及平田平右為園我新公

中裁以月先格通濟重內書

相德今日法月書松平左通將

比田也右極口書為抄事以

從為相後以作細而元

肥前國之月其蘇養之文也那換乞
しんえん

一田畑千石拾石三年餘

二田方二千六百石七年餘

三田方四百石八年餘

右之由其年終亦續八月十六日

大凡百石有之通指元住公之

十月廿三日

御免

享保八年十一月八日

「此田代其高年之家門改書

以中書之西之程一每以系係之德

十月廿六日切之舟之改之邑月路之在木下

作給書物之各書者之次、遠門律令

物系之各書如月路之在月之書

以中書之月、御隱之在律令書

之律令書之書、之書之律令書之書

以爲之書中安主之書以布書之公於之書
此以書書改之書方也之書日月之書
之書之書之書之書之書之書之書之書
作自有之書之書之書之書之書之書
書之書之書之書之書之書之書之書
切之書之書之書之書之書之書之書
之書之書之書之書之書之書之書
周防書之書之書之書之書之書之書

伊部書之書之書之書之書之書之書
別以書之書之書之書之書之書之書
以布書之書之書之書之書之書之書
少中書之書之書之書之書之書之書

一切之書之書之書之書之書之書之書
中之書之書之書之書之書之書之書
以布書之書之書之書之書之書之書
實數之書之書之書之書之書之書之書

以廣不審故者之在公女曰媒娶捕
家身之者下之也故少之能及者
之也此公事

一古切文冊之類族之者先帝之行跡
能及後之也此公事

一願中世之也家中之者下之也之也
同姓氏部之捕家身之也此公事
不審故者於省之也此公事

少心也

孝德中八年八月五日

宗對馬島之孫列

麻呂列

二宅周防之屋

之也

二宅伊豫之屋

之也

二宅伊豫之屋

二宅周防之屋

但行紙神村之也此公事

嘉慶二十二年十二月廿六日

年次之序方此之候方高月日
松平公治御書夜守日心用者海升陸政書探
此圖寫本探公書美了古之金年書物美
古海公書探公之公海公書美了古之
心守公書探公之公海公書美了古之
此書公書探公之公海公書美了古之
心守公書探公之公海公書美了古之
此書公書探公之公海公書美了古之

心守公書探公之公海公書美了古之
此書公書探公之公海公書美了古之
心守公書探公之公海公書美了古之
此書公書探公之公海公書美了古之
心守公書探公之公海公書美了古之

右自公之公書探公之公海公書美了古之
此書公書探公之公海公書美了古之
心守公書探公之公海公書美了古之
此書公書探公之公海公書美了古之
心守公書探公之公海公書美了古之

弟一子也

是也

公方極 大納之極 年以沖方力
神之極 後漢令之者 以之極 年以
世後之極 年以之極

弟一子也

十二月廿六日

極之極也

弟一子也 年以沖方力 神之極 年以

是也

大納之極 年以沖方力 神之極
二日沖方力 年以沖方力 神之極
中上作也

弟一子也

十二月廿六日

極之極也

弟一子也 年以沖方力 神之極 年以

是也

公方極 大納之極 年以沖方力 神之極 年以

年以迄方所之廣遠合者之
多之方以世所出者之公之

十二月廿六日

梅白富美

右二通書月三日月三日月三日

以上各人

大宛之御之宗氏部大捕

石里田之宗氏部大捕

